

砂防だより

新春号

NO.
132

2001.1.1



特集 21世紀の静岡県 砂防ビジョン

新年の挨拶	2
21世紀の静岡県砂防ビジョン	
砂防関係補正予算可決（12月県議会）	4
豊田舜次副支部長を思う	5
全国治水砂防促進大会	6
東海地区砂防協会支部長・砂防課長合同会議	
市町村等砂防担当職員研修	7
火山防災講演会	8
火山砂防フォーラム	
わがまちの砂防	10
（熱海市・沼津市・焼津市・水窪町）	
砂防関係の主な行事	12



全国治水砂防協会静岡県支部

年頭のご挨拶

全国治水砂防協会静岡県支部
支部長 齊藤 滋与史



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、日頃から当協会に対する暖かいご理解と絶大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本県では明治35年に砂防工事を初めて以来約百年間治水砂防事業の着実な推進を図るとともに、近年は警戒避難体制の充実等により、総合的な土砂災害対策を進めております。

新世紀を迎え、これからも“真に豊かさの実感できる県民生活を実現する「快適空間しずおか」の創造”のため、安全な県土づくりに努めてまいる所存であります。

今後とも砂防関係事業の発展のため、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます、21世紀を迎えた年頭のご挨拶といたします。

平成13年 元旦

21世紀の静岡県の砂防ビジョン

河川砂防総室 砂防総括監
武田 晴夫



あけましておめでとうございます。

21世紀の総人口は2007年をピークに減少する一方で、65歳以上の高齢者人口は上昇を続けると予測され、静岡県の人口も2025年には約350万人で約7%減少すると新全国総合開発計画では推定しています。また、国民意識の大転換により人々の価値観、生活様式の変化や多様化が進み、増加する高齢者の積極的な社会参加（ボランティア、NPO活動）が見込まれます。さらに、高度情報化時代における情報通信の役割は社会の様々な側面で、飛躍的に高まっていくことが予想されます。

このような時代の潮流に配慮し、魅力と活力ある21世紀を築いていくために、砂防事業により土砂災害からの安全性を確保し、活力ある地域づくりのための基盤整備を着実に推進していくことが重要と考えます。

明治30年の「砂防法」制定から100余年、明治35年静岡県で砂防工事に着手以来99年の歳月を経て、20世紀は土砂災害に対する安全度は着実に向上しましたが、21世紀を迎えるに当たり、ここに「21世紀の静岡県の砂防ビジョン」として新たな目標を掲げ、「快適空間しずおか」の創造に向け引き続き努力して参りたいと考えております。

目標達成に向けて、関係者の御支援・御協力をお願いいたします。

●21世紀静岡県砂防ビジョンの目標●

着実な防災対策の推進

土砂災害危険箇所（土石流・地すべり・がけ崩れ）の防災対策を今世紀中に全て完了する。

- 2025年までに人家5戸以上の土石流の対策を完了し、県民12万人の安全を確保する。
- 2025年までに地すべりの対策を完了し、県民2万人の安全を確保する。
- 2025年までに人家5戸以上の急傾斜地の対策を完了し、県民12万4千人の安全を確保する。

被害の軽減化・地域活性化

「土砂災害防止法」を活用し、土砂災害の恐れのある区域全てについて安全を確保し、活力ある地域づくりを支援するソフト対策を推進する。

- 2020年までに県内に存する約15000箇所及び土砂災害危険箇所について、土砂災害警戒区域等の指定を完了する。なお、都市計画区域内の箇所は2010年までに指定を完了する。

NPOや砂防ボランティア活動との協働の推進

NPOや砂防ボランティアと協働し、災害の未然防止のため効率的、効果的な施設管理と危機管理体制の整備を推進する。

- 2005年までに自主防災組織を活用し、砂防ボランティアとして防災連絡員2700人を組織化する。
- NPOや砂防ボランティアと協働し、民間活用による効率的・効果的な行政を推進する。

21世紀の砂防ビジョン

土砂災害の大半は大雨に起因し、概括的な事前予測はできますが、詳細な発生場所や時間の予測はまだ困難な状況です。このため、全国では土砂災害に伴う死者がもっとも多くなっておりま

す。静岡県内は、地質や地殻構造など土砂災害の宿命を抱えていますので、土砂移動や地盤の挙動の技術的解明に取り組むとともに、施設の適正な配置、整備の推進や的確な避難時期の情報提供などに努めてまいります。

また、21世紀の社会は、少子高齢化、高度情報化など生活や生産環境と住民の方々の意識や価値観が一層変化していくでしょう。

このような社会変化に柔軟に対応し、地域の方々と協働して社会資本整備を図ることがもっとも重要であり、砂防事業も例外ではありません。事業について分かりやすく説明し、効果を評価し、自然環境へ一層配慮してまいります。よろしくお願いいたします。



建設省静岡河川工事事務所
所長 国枝重一

終戦後、荒廃した山を守るため、植林が行われてきました。しかし、当時は、経営的な観点から杉や檜が植えられ、その後の木材単価の低下や人件費の高騰のため経営的には手入れさえ出来ない状況になっています。

その結果、空から見れば緑の山々がその足下は、細長い鉛筆のような杉・檜が林立し、下草も生えないで地表が露出しています。その一帯は、木の実などの餌もなく、大雨時には、地表を土砂を含んだ水が大量に素早く流れ出し、根のしっかり張ってない木は、流木となり下流に被害を及ぼしていきます。

土砂の流出を抑制し、流木を止めるためには、砂防ダムの整備とともに下草も生え、生態系的にも豊かな山の復活が必要だと思っています。必要な施設を整備していくとともに山を健康にすることが、21世紀の国土保全のために重要だと考えています。



建設省沼津工事事務所
所長 清水 裕

静岡県の強力な御支援のもと、おかげさまで2年にわたる富士砂防直轄着手及び、設立30周年事業も、大集成であるシンポジウム「富士山の自然と保全ー世界に誇るFUJIYAMAを新世紀に伝えるためー」が他の関連事業とともに実り多い成果をもって終了しました。今までの事業内容を総括し、新世紀に向けての「富士砂防の明日」が提案され、富士山の崩壊・土砂移動を含めた自然条件の特殊性、多様性、重要性が改めて明らかになりました。

従来の緊急的な大沢川等の土石流対策対応から、山麓全体の空間利用、流砂系、噴火等への危機管理などが必要となり、国土交通省の地域マネージメントの最前線として、「世界に誇れる富士山」を担う事務所として、暖かい理解と強力な御支援をしていただいている「地域」と「時代」の要請に応じられるよう頑張っております。



建設省富士砂防工事事務所
所長 花岡 正明

防災知識の普及と 情報相互通報システムの整備

防災教育による砂防知識の普及を図り、住民と行政の連携により土砂災害情報が相互に共有されるシステムの整備を早期に完成し、安全な地域づくりを目指す。

- 2010年までに全市町村に「土砂災害情報相互通報システム」を整備する。

火山防災体制ー地震防災体制の 整備・充実、総合的な防災対策の推進

富士山等の火山噴火災害の防止及び突発的な地震災害に対する備えの充実等、市町村や他部局と連携して防災体制の整備・充実を推進し、自然災害への危機管理に備える。

- 2005年までに富士山噴火災害に備えて、「火山防災ネットワーク」を整備する。
- 2025年までに「富士山火山砂防計画」に基づき、富士山周辺の土石流対策を完了する。

環境問題や自然環境の保全への積極的な 対応と推進ーグリーンベルトの創設

一貫した流砂系の総合的な土砂管理対策を積極的に推進するとともに、緑豊かな自然環境と景観を保全育成するため、都市周辺の面的な砂防関係事業を強力に推進する。

- 2020年までに「静岡清水都市山麓グリーンベルト」の整備を完了する。
- 「静岡県深流域環境整備計画」に基づいた潤いある砂防事業を展開する。

県の12月補正予算可決

県の平成12年度12月補正予算が12月県議会定例会において可決されました。

一般会計の補正規模は176億3,400万円で、うち土木部関係予算では92億円余が増額補正されました。

砂防関係予算は20億2,500万円の増額補正で183億200万円余(12月現計)となりました。

補正の内訳は国庫補助事業9億5,600万円、災害関連緊急事業10億6,900万円です。

(単位：千円)

区 分	⑫当初予算	9月補正額	12月補正額	12月現計(A)	⑪最終予算(B)	A/B
行政費	4,235	0	0	4,235	4,336	97.7%
国庫補助事業	10,479,000	1,488,000	2,025,000	13,992,000	13,371,791	104.6%
県単独事業	2,303,000	235,000	0	2,538,000	3,083,284	82.3%
国直轄事業費負担金	1,592,000	176,000	0	1,768,000	2,418,231	73.1%
合 計	14,378,235	1,899,000	2,025,000	18,302,235	18,877,642	97.0%

諸子沢災害関連緊急地すべり対策工事を開始

平成12年度は11月末までに全国で561件、本県では21件の土砂災害が発生し、前号で報告しましたが4件の災害関連緊急事業(地すべり1件、急傾斜3件、事業費12億5百万円)が採択されました。

なかでも諸子沢地すべり(静岡市)は特に規模が大きく、9月11~12日に連続雨量411mmの豪雨により地すべり活動が活発化しました。

このため、5基の集水井工とアンカー付き法枠工(延長170m、面積2,100㎡)を計画し、早期完成を目指して12月下旬に工事が始まりました。

地元では38戸126人の住民の方々が、いざという時には避難できるよう、県、静岡市、警察署、消防署の連携のもと警戒避難体制を整備しており、一日も早く安心して住める環境を取り戻すことが望まれています。

2000年 平成12年 砂防10大ニュース

1 土砂災害防止法が成立
ソフト対策新法で2000年4月27日成立。
安全な県土づくりに向けて、土砂災害対策への期待高まる。

3 丸山町賤機山訴訟が結審
昭和49年七夕豪雨のかけ崩れ災害で8名が死亡する被害が発生。
26年間の裁判が最高裁で結審。

5 H12年は土砂災害による人的被害0を達成
県内では21件の土砂災害が発生したが、人的被害0を達成。
再度災害防止に向けて、諸子沢地すべり等4件の災関連事業を実施。

7 木和田川砂防学習ゾーンモデル事業の完成
地域と連携し5年の歳月で県内初めての学習ゾーンが完成。

9 富士山大沢川で最大級の土石流が発生
30年間の直轄砂防事業の施設効果で被害防止が図られる。

2 豊田副支部長逝去
豊田袋井市長は副支部長として12年間協会活動にご活躍されました。慎んでご冥福をお祈りいたします。(享年73歳)

4 市町村長等砂防事業県外視察で北海道有珠山へ
全国で多発する火山噴火災害を肌で実感。
火山砂防事業への期待高まる。

6 急傾斜地崩壊対策事業費が全国第4位に浮上
かけ崩れ災害の防止に向けて、着実な整備が進む。

8 小谷之沢災害関連緊急砂防事業の完成
平成10年8月27~30日の豪雨で土砂災害が発生した
函南町の小谷之沢に土石流対策砂防堰堤が完成。

10 火山防災講演会の開催
富士山等の火山噴火災害対策を防災局と連携して県民にPR。

豊田舜次副支部長を思う

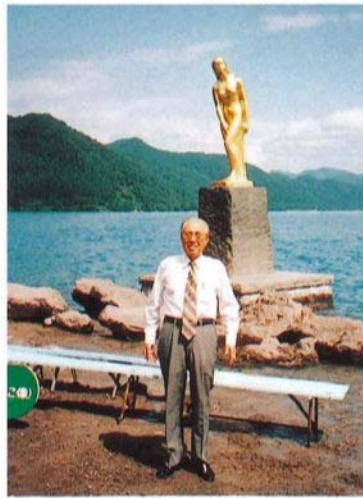
沼津土木事務所 所長 棚田博人

「誠実で清潔な政治姿勢」の信条そのままに、4期12年余りを袋井市長として、民間の経営感覚を積極的に行政に取り入れて、市の発展に尽力され、さらに数多くの公職の中でも特に全国治水砂防協会静岡県支部副支部長、(社)全国治水砂防協会評議員として、砂防関係事業の発展のために、力強いご指導をいただいていた、豊田舜次市長さんが暮れも近づいた平成12年11月30日に、永眠されました。

4選を目指して選挙運動中の10月5日に発病されたにもかかわらず、8日の投票の結果、見事当選され、10月25日から4期目に入られておりました。

少し静養すれば元気な姿で軽く右手を上げて再起されるものとばかり思っておりましたので、訃報に接し私は大変なショックを受けました。

今思い返してみると、ご一緒に斉藤滋与史支部長さんにお会いに行き、砂防事業のこと、協会のこと、小笠山総合運動公園の建設のこと、袋井市周辺の広域行政への取組みのことなど、熱心に話されていたことや、協会の現地視察では、大変忙しい日程のなかでお元気に皆の先頭を歩いておられたこと、お茶の葉を使った名刺を考案して、袋井のお茶をアピールしておられたこと、楽しいお酒をご一緒させて頂いたこと等々いっぱい浮かんで



平成9年度視察 (於 秋田県 田沢湖)

きます。

ご自身が「日本一健康文化都市」を目指して、積極的に施策を進められているのが評価され、平成10年7月には「第1回健康と都市環境に関する世界会議」に日本代表の一人としてスペインのマドリードで意見発表をされたと伺っております。また元気なお姿でお会いできるのを楽しみにしておりましたので、本当に残念です。

慎んで御冥福をお祈りいたします。



平成10年度 支部通常総会



平成12年度視察 (於 北海道社警町)



平成11年度視察 (於 高知県香北町)



全国治水砂防促進大会の開催



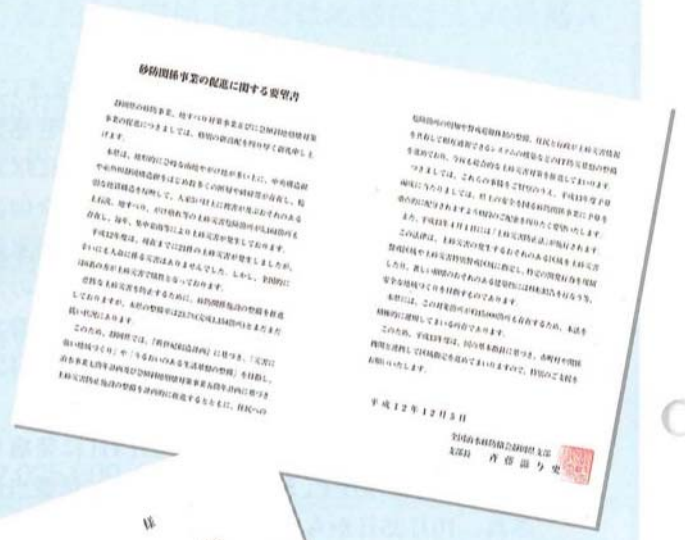
全国治水砂防促進大会が、平成12年12月5日、東京都千代田区の砂防会館で開催されました。

当日は、全国各地から1,000名を越す多数の会員が参集し、当支部からもご多忙中にもかかわらず、市町村長の方々をはじめ総勢27名の会員にご出席いただきました。

大会は、唐沢全国治水砂防協会長の挨拶にはじまり、扇建設大臣の祝辞を森建設省砂防部長が代読されました。続いて、会員代表者の北海道虻田町長・東京都神津村長より、平成12年に発生した災害についての意見発表がありました。最後に、砂防関係事業の促進について、「大会アピール」を砂防協会の久保理事長が行い、盛会のうちに終了しました。

午後より、大会へご出席いただいた当支部の皆様とともに、地元選出国會議員へ砂防事業の促進について要望活動を行いました。

お忙しい中を出席していただきました皆様に心からお礼申し上げます。



平成12年度東海地区砂防協会支部長・砂防課長会議開催

標記合同会議が、平成12年11月21日、愛知県名古屋市中で開催されました。

本会議には、岡本建設省砂防部砂防課長、久保全国治水砂防協会理事長が出席され、静岡岡県からも協会支部会計監査役の櫻井河津町長と武田砂防統括監が出席されました。

会議では、各県の支部活動状況と災害の未然防止に継がる相互通報(砂防IT)及び警戒避難体制のあり方について意見交換を行いました。

翌22日は、愛知万博予定地の砂防施設等の視察を行いました。



市町村等砂防担当職員研修の実施

全国治水砂防協会静岡県支部主催による、砂防担当職員研修を、平成12年11月9日～10日の2日間、富山県で実施しました。参加者は、県内市町村等砂防関係担当職員や県土木事務所砂防担当職員等46名でした。

9日は、砂防室の職員を講師として、砂防関係事業の概要、土砂災害の発生状況及び対策、急傾斜地崩壊危険区域の指定申請などについて研修会を行いました。

10日は、建設省立山砂防工事事務所のご協力を得て、常願寺川の砂防「本宮砂防ダム」「津之浦下流砂防ダム」を見学しました。「本宮砂防ダム」は貯砂量は500万 m^3 と日本最大の貯砂量で、また「津之浦下流砂防ダム」は、大型スリットダムであり、水の少ない時でも流路が固定しているため、魚が行き来できるようになっています。

現場見学後、「立山カルデラ砂防博物館」へ移動し、大型映像ホールにて、3D等による立山砂防についての映像の上映、その後、砂防情報総合センター職員のご案内により、趣向を凝らした体験コーナーや立山カルデラ大型地形ジオラマ等の展示室を見学しました。

参加者の砂防に関する関心が高く、大変有意義な研修であったとの声をいただきました。

来年度も、実施を予定しておりますので、皆様のご参加をよろしくお願い申し上げます。



立山カルデラ砂防博物館



津之浦下流砂防ダム

参加者の声

静岡市 河川課主幹 斎藤直彦

幻想的な宇宙に地球が誕生する大パノラマの立体映像は、あたかも宇宙にいるかのような錯覚に引きずり込まれる。

いつか、どこかで味わった感激が今よみがえってくる。立山連峰の雄大な景色が空のかなたから現れ、私は魅せられ夢中にさせられる。あばれ川常願寺の猛威で永い間人々は苦しんできた。濁流と土石流が凄い勢いで観客を呑み込む。思わず体を避けてしまう「ド迫力」で私に迫る。立山カルデラ砂防博物館のほんの一コマであった。

まさに川というより、滝である常願寺川。水源地のもろいカルデラからの崩壊土砂、治水の根本は砂防にあると確信する。人々の知恵が自然の美しさと暮らしを守る。

そんな何か遠くへ忘れてきたものを取り戻せるような気持ちにさせられた。

袋井土木事務所掛川支所 主任 松井活夫

北陸地方を襲った安政5年の大地震により立山カルデラに推定崩壊土砂量4億 m^3 を越える山崩れが発生した。常願寺川源流部の立山カルデラには、土砂量約2億 m^3 が現在も残存しているという。

砂防とは、地形変動等の自然の脅威から人々の生命と財産を守ることに他ならない。

果てしない砂防の戦いを続けなければならないこの地の厳しい宿命を感じたと同時に、これらの戦いに果敢に挑んだ先人たちの勇気や気概に、対して頭の下がる思いがした。



富山県の鳥「雷鳥」

火山防災講演会の開催

平成12年11月7日に県民に火山防災に対する理解と関心を高めてもらうため、火山防災の権威による「火山防災講演会」を静岡市で開催しました。

講演は北海道大学大学院の岡田弘教授が「自然災害の軽減を求めて—有珠山や内外の噴火予知から学ぶ—」と題して、3月31日に噴火した有珠山について、当時の状況を事前の予知と情報の公表などを中心に詳しく説明し、噴火による被害が小さく収められたのは「住民に詳しい火山情報を伝え、住民が的確に行動した成果」であると報告されました。

次に、静岡大学の小山真人助教授が「静岡県周辺の火山防災の現状と問題点」と題し、富士山や伊豆東部火山群などの火山の現況を紹介し、まちづくりを視野に入れた都市計画など長期的な備えには、ハザードマップの作成など火山防災への備えが不可欠であると講演されました。

講演会は県内外から約360名が参加して盛況に開催され、今後、富士山等の火山防災対策（ハザードマップの作成や情報伝達等）を進めるうえで大変参考となりました。



2000火山砂防フォーラムの開催

「火山を知り、火山と共に生きる～火山地域の新世紀に向けて～」をテーマに、平成12年11月17日～18日、長崎県島原市にて「2000火山砂防フォーラム」が開催されました。

静岡県からも土木部砂防統括監を始め、富士山周辺の市町村関係者など数多くの方が出席されました。

フォーラムでは、雲仙普賢岳の火山活動の現状及び復興に向けた砂防事業の歩みと、有珠山及び三宅島の噴火と避難状況のレポートがありました。復興を果たした

雲仙普賢岳、終息期に入り復興に取り組み始めた段階の有珠山、被害拡大中の三宅島について、それぞれの首長や専門家から貴重な防災に関する意見が聞かれました。

富士山及び伊豆東部火山群を有する本県においても、住民と行政及び専門家が連携した火山防災体制の強化が必要です。

フォーラムを通じて、安全の確保や地域おこしと被災者への支援等砂防事業に寄せる期待が強く感じられました。

全国地すべりがけ崩れ対策協議会 平成12年度技術研修会並びに第54回研究発表大会の開催

平成12年度技術研修会並びに第54回研究発表大会が10月18日から20日にかけて、長崎県佐世保市で開催されました。技術研修会では、「流域水質管理に基づく水環境整備の必要性」についての長崎大学野口正人教授の特別講演と、「斜面行政をめぐる最近の話題」について建設省傾斜地保全課栗原課長補佐の講演がありました。また、研究発表大会では、土木研究所や各県から新工法、樹林帯の整備、地すべりの動態観測など、地すべり・がけ崩れ対策について14件の研究・事例の発表があり、活発な討議がなされました。

最終日には、市街地で発生した「原分地すべり」と最大地すべり層厚90mという大規模な「鷲尾岳地すべり」の対策状況を見学しました。



(原分地すべり) 長崎県職員の説明

暮らしと土木展

「第13回暮らしと土木展」が10月24日に、静岡市の青葉シンボルロードで開催されました。建設業に携わる官民合わせて23団体が土木に関わる様々な話題を紹介しました。「未来を拓く建設事業」をテーマとした県の展示コーナーで、土砂災害防止についてのパネル掲示、砂防ダム工の模型展示、土砂災害防止のためのパンフレットの配布を行いました。

砂防協会では「みんなで防ごう土砂災害」と書かれたキーホルダーを来場者に配布し、土砂災害防止の意識高揚を図りました。

来場者は平成11年9月の豪雨で大規模な土石流が発生した坂本川(静岡市口坂本)の砂防ダムによる土砂

捕捉事例の紹介に砂防施設の重要性を再認識していました。



平成12年度地すべり学会中部支部現地検討会の開催



地すべり学会中部支部は長野県・富山県・石川県・岐阜県・愛知県・三重県・静岡県の中部地方7県の地すべり会員により、平成10年12月に設立され、地すべり機構解明の研究、地すべり対策技術の向上を目的としています。支部では、年一回、地すべり現地検討会を開催しており、今年は11月15～16日に、本県を代表する大規模な地すべりである静岡市の口坂本地すべりで開催され、支部長である川上信州大学名誉教授をはじめ、約50名が参加しました。

1日目は小雨の降る中、口坂本地区の現地踏査を行い、2日目は土屋静岡大学教授の司会で口坂本地すべりの機構の説明と参加者の活発な意見交換が行われました。

平成12年度 水害等訴訟実務研究会の開催

水害等訴訟実務研究会は建設省河川局水政課の主催で水害や土砂災害などの訴訟を抱えている建設省や県が参加し、お互いの訴訟実務の報告と質疑応答を通して業務の参考とする会で、毎年各都道府県の持ち回りで開催されています。

今年は10月30～31日に北海道洞爺湖温泉町で開催され、水政課所管の訴訟106件(H12.4.1 現在)の内土砂災害関係4件、水害関係9件、不法占用等3件の合計16件の報告がありました。本県は今年の2月に最高裁で判決が下りた「丸山町賤機山訴訟」(七夕豪雨による静岡市のがけ崩れにより8人の方が亡くなった事件)の報告をしました。

丸山町賤機山訴訟は、県の法的作為義務違反が争点となりましたが、危険箇所点検数が膨大で県の作業の精度には限界があることや具体的な斜面崩壊の予見は不可能であることなどの点で県側の主張が認められました。

研究会の翌日には北海道庁の案内で有珠山噴火の被害を受けた西山川での無人化施工による土砂排除工事や周辺の被害状況を見学しました。温泉街には客足が少し戻りかけているようで、西山火口から500m程のところまで一般客が近づき噴火が頻繁に飛び上がっているようすが観光の対象となりました。



西山川と西山火口

七がまちの砂防

熱海市

熱海市 土木課長 高橋 友之



熱海市観光イベント「華の舞」

熱海市は山の緑と海の青に囲まれた風光明媚な自然、豊かな「温泉」、四季温暖な気候に恵まれた常春の地として、歴史と伝統ある国際観光温泉文化都市です。本市の地形的特色は山や海の自然は素晴らしい景観をつくりあげている反面、市街地は海岸付近の平坦地の他は大部分は傾斜地で占められています。バブル最盛期にはこの斜面地にリゾートマンション建設、宅地分譲地の創出等があり、市民等には常に土砂災害の不安を与えてきました。観光立市を掲げる本市は、市民には住み易く観光客には快適さを提供していかなければなりません。

そこで「災害に強い観光の町熱海」をつくるため、昭和54年から本市の西に位置する西山町地区を皮切りに急傾斜地崩壊対策事業を進めてきたところです。以後、緊急度の高い地区を優先的に事業を

展開していますが、幸いに大きな災害に遇わずほっとしているところです。しかし、当市の進捗状況は必ずしも高いものではありません。21世紀に向けて当市のモットーである「親切」と「文化」そして「防災」をキャッチフレーズにし、魅力的で安全な「観光地熱海」を目指して、環境にやさしく、防災に強い街づくりを進めていきたいと考えています。

現在、未曾有の不況で熱海市は低迷しております。この打開策として、伊豆新世紀創造祭をはじめ各種イベントを実施してきましたが、単にイベントを楽しむだけでなく、“心を癒す環境”即ち急傾斜地崩壊事業等を通じて快適環境の必要性を感じてほしいと考えています。そして、これからのイベントを通じて熱海の良さを味わっていただければと願っております。



▲市の花「梅」



桜木町 急傾斜地

沼津市

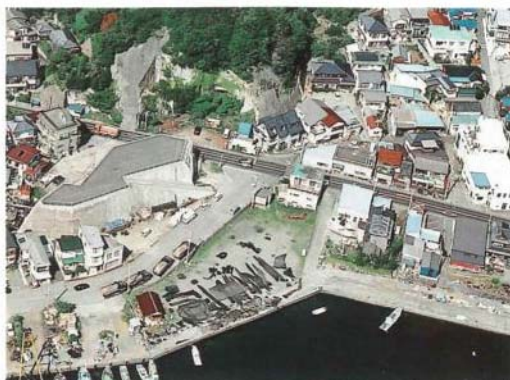
沼津市 河川課長 野地 光雄

北に富士を頂き、南に奥駿河の海を抱く風光は沼津市民の誇りであります。

それと裏腹に、リアス式の海岸線に古来から居住した住民は、裏山と表の海に挟まれた狭隘な土地に居住を余儀なくされ、かけ崩れ等の不安の日々を過ごしたものと容易に推察できます。

室町時代の半ば、時の幕府内の二大実力者の抗争から日本各地に戦乱が広がった、「人の世空し…」。応仁・文明の乱を契機に登場し、この地を旗揚げの場所とし、戦国時代の始まりを告げた武将こそ、北条早雲（伊勢新九郎盛時）であります。

晩成だった早雲の「国盗り物語」にしばしば登場するの



多比船越第2急傾斜地（急傾斜地事業で津波避難地を造成）



淡島越しの富士

が今日でいう急傾斜地です。

ある時は旗揚げの城、「興国寺城」周辺のそれであり、またある時は伊豆侵攻に従った水軍の舟を隠すのに相応しい、根拠地周辺の急傾斜地であります。

昭和44年に始まった沼津市の急傾斜地事業は、県をはじめとする関係各位の幾多のご努力により順調に推移しており、関係住民ともども感謝の意を表わすところであります。

今後とも関係機関の皆様の変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



市の花「はまゆう」



焼津市

焼津市 河川課長 岩谷 壽夫

焼津市は、志太平洋野の最下流部に位置し、市域の面積が45.87km²と県下21市の中で一番小さい市です。

狭い市域ではありますが、11kmの海岸線を有し、静岡市との市境に市のランドマークである高草山、そして平野には10河川の二級河川をかかえ自然災害が非常に起こりやすい地形となっています。

砂防事業のほとんどが高草山山麓で行われ、平成12年4月1日現在で砂防指定地11、地すべり危険箇所1、土石流危険渓流20、急傾斜地崩壊危険箇所24となっています。



第21回全国豊かな海づくり大会

市の鳥「ゆりかもめ」



東井戸沢砂防事業

昭和57年の大災害から、事業の推進にさらに努め今日に至っていますが、まだまだ危険箇所は多く、安心、安全に生活できるよう関係各位の一層のご支援をお願い致します。

いよいよ21世紀、本年10月28日(日)に、第21回全国豊かな海づくり大会が新焼津漁港にて開催されます。この大会は、国民的な行事として天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、昭和56年から毎年開催されているものです。

「うみがすき、魚いっぱい、あおいうみ」。
新焼津漁港でご来場をお待ちしております。

水窪町

水窪町 建設課長 熊谷 啓司

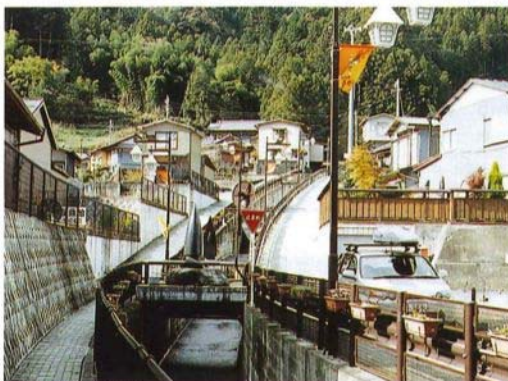
21世紀という新しい年を迎え、大きく聳え立つ山を見てはいつも思い出す句があります。

「青々と 山の梢のまだ昏れず 遠きこだまは 岩たゝくらし」

水窪の町をこよなく愛した民俗学者、折口信夫はこの地の自然をこのように詠んでいます。

当町は、美しい景観や生命の鼓動が満ちています。標高2,296mの「中の尾根山」は町の最高峰、溪流白倉川を発する「白倉山」、原生林を野生の鹿が駆け抜ける「奈良代山」など名の知れた山は36を数えます。また、信州と境を分ける「青崩峠」「兵越峠」など峠の数は9個に上ります。

しかし一方では、時に荒れ狂う風雨により、崖崩れ等の土砂災害が起こり、人命や財産に大被害をもたらしてきました。



押出沢（おんだしさわ）砂防事業



北遠随一といわれる奇祭「みさくぼまつり」



町の花「ヤマユリ」

平成3年9月に発生した押出沢の土石流は、住宅の被害は71戸に及びましたが、幸いにして人命に係わる被害には至りませんでした。

当町における砂防事業の歴史は古く、昭和28年度に水窪川支流翁川に砂防堰堤が建設されました。度重なる台風等により災害に見舞われ、その対策として建設されたと思いますが、当時の技術力を偲ぶ足跡が今でも残り、その堰堤を見る度に先人達の御努力に頭の下がる思いでいっぱいです。

この様に、時代と共に発展した砂防事業は、今後も住民が安心して暮らせるため、地域の声を聞き、21世紀の新しい社会に大きく貢献し、価値ある砂防施設を残していくことが我々の使命だと思っています。

シンポジウム「富士山の自然と保全」



平成12年12月22日、「富士市の自然と保全－世界に誇るFUJI-YAMAを新世紀へ伝えるために」のシンポジウムが約1,000人の参加のもと富士市で開催されました。

当日は、柴副知事から直轄砂防事業推進と、富士山の環境保全運動について県の取り組みや決意のあいさつがありました。また、石川知事もVTRで出演し、富士山への思い入れ、富士山総合環境保全指針に基づく「富士山憲章」や、「富士山100年プロジェクト3776構想」について語り、全国に向けて富士山の環境保全のための協力を呼びかけました。

●沼津工事事務所からのお知らせ

PR看板で狩野川台風の爪痕を紹介!!

昭和33年の狩野川台風では、狩野川上流域で約1,200箇所もの山地崩壊が発生し、甚大な災害をもたらす大きな要因となりました。

このPR看板は、今もその爪痕として残っている「筏場の大崩壊」を当時の状況を含めて地域の住民だけでなく、広く多くの方に紹介することより、自然災害の恐ろしさを改めて考えていただくことを目的として、田方郡中伊豆町の筏場地先に設置しました。



筏場の大崩壊



砂防施設見学会での子供達と



【支部行事予定】

1月12日(金) 「諸子沢」災害関連緊急地すべり防止工事安全祈願祭

1月16日(火) 「大峠局地レーダ雨量計」完成祝賀式及び砂防講演会

2月 7日(水) 「土砂災害防止法」講演会

【協会本部行事予定】

5月23日(水) 平成13年度 通常総会

編・集・後・記

21世紀あけましておめでとうございます。

新世紀を迎え、改めて、「砂防だより」が会員の方々や関係各位の皆様方に役立つものにならねば…と身の引き締まる思いがしていますが、私にとって、今号が最後の編集作業になりました。

約2年間、多くの方々のご支援ご協力をいただきながら、本誌の編集及び様々な砂防関係行事に携わり、多くのことを教わり学びました。

市町村会員(市町村長)の皆様をはじめ、砂防関係に携わる多くの方々と共にした経験は、私にとって何ものにも変えられない財産となるでしょう。

これからも末永くご愛読いただける「砂防だより」であるようお祈り申し上げますとともに、今後ともご愛読いただけますようお願いいたします。

砂防協会事務員 河村 千江美

表紙写真：流雲(茶臼岳よりの富士)
静岡市 吉沢 登さん撮影

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しております！
皆さんの御協力お願い申し上げます。
詳しくは下記宛にお問い合わせ下さい。



第132号 発行日：平成13年1月1日

編集・発行：全国治水砂防協会静岡県支部
〒420-8601 静岡市追手町9番6号

静岡県土木部河川砂防総室砂防室内

TEL (054)221-3042 FAX (054)221-3564

E-mail : sabo@hq.pref.shizuoka.jp



古紙配合率80%再生紙を使用しています